

2025年度 教育活動等に対する園関係者評価

社会福祉法人愛の園福祉会
第2幕張海浜保育園

1. 保育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解に立って、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

《基本方針》

- ①心の清い正直な人間・・・（良心教育）
- ②心の豊かな明るい人間・・・（情操教育）
- ③からだの丈夫な強い人間・・・（健康教育）
- ④動作の機敏な人間・・・（安全教育）

2. 本年度の重点課題

- ①インクルーシブ保育の実践
- ②業務のICT化
- ③人材定着への取り組み
- ④基本理念の明確化と保育実践

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

（評価はS90点以上 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D50～59点 E50点以下 ）

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		園関係者評価委員会	
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
教育・保育方針	1	<p>・子どもの発達に合わせた保育カリキュラムの計画と実践を行う。</p>	B	<p>・法人で作成している保育カリキュラムを基盤として、一人ひとりの発達段階や個性の違いを考慮した保育の計画を立てることができています。実践に関して計画通りにできていない所もあったのでその都度見直しを行いながら不足していることを補っています。子どもたちは個々によって発達の進み具合が異なり、多様な個性を持っていることを職員が共有し、今後はさらに個々の成長スピードや興味・関心に寄り添いながら、一人ひとりに最適な環境設定やカリキュラムの微調整を継続していくことが課題です。</p>	B	<p>自己評価は計画はあるが一部実行が不十分につきB判定とした。</p> <p>・関係者からは「一人一人の発達段階や個性を重視しながら実践することが難しいことであること、実践をしている段階でA以上も妥当」との見解や、目標設定のバランス（保育者が無理をするような高すぎる目標になっていないか）に関するコメントをいただいた。</p>
	2	<p>インクルーシブ保育：同じ人間であっても様々な違いがあることを念頭に置き、違いを認めあいすべての人がお互いの人権と尊厳を尊重しあい生活できる保育を展開していく。</p>	A	<p>・配慮を必要とする子に対して個別対応したり、療育の観点からアプローチできるように法人内のこども発達支援事業所エールとつないで保育と療育連携を図っています。日常の保育の中で保育士だけでは困難なこともあるますが、エール幕張海浜との連携があることにより保育と療育の連携が子どもたちの育ちに大きく影響することは実感できています。今後も様々な専門職の職員との連携会議を通して子どもたちの為により良い保育が行えるように励んでいきます。</p>	A	<p>・姉妹園に併設されている「子ども発達支援事業所 エール幕張海浜」と連携し療育の視点を保育へ導入。保育士視点と療育専門職視点の違いを学び、個別支援が必要な子を自然に集団へつなぐ取り組みがなされている。</p> <p>・法人の理念として全ての子どもが尊重され豊かに育つ環境整備を重視している。療育視点の助言が保育の中で子どもの成功体験に繋がることもあり、保育者の自信向上に寄与している。</p> <p>・関係者の方からのコメント：子どもが安心して本来の姿でいられる場の価値を肯定。S評価でも良いというご意見もいただいたが、配慮児の集団参加の難しさなど、その子本来の力を引き出しきれていないのでは？という点を園として課題と感じている。</p>

評価項目		具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
特色のある保育の展開	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した園になるために園での取り組みや情報を地域に公開する。 ・気軽に相談できる場所を提供し子育て支援をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した園として「公園で遊ぼう」やInstagramを通じた情報公開に積極的に取り組んでいます。地域から「気軽に相談できる雰囲気がある」との評価を得る一方で、今後は「キリスト教保育」という園独自の強みをより前面に出した発信が必要だと感じています。既存のツールをより戦略的に活用し、園の理念や特色ある教育内容を地域へ分かりやすく伝えていくことが課題です。地域の子育て支援の拠点として、精神的な支えや専門的な助言を提供できる体制をさらに強化し、情報の透明性と質を同時に高めていきます。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・活動4年目で常連、リピーターが増加している。今後、年齢別に内容を調整していきたい。 ・これまで夏の猛暑・冬の寒さで屋外活動が難しい時期は公園で長期間対応できないことが課題とされていた。今年から気温の高い場合や雨天は園内に場を移して実施し、園内の様子や他学年の活動も見てもらう機会を創出していく。栄養士や保育の専門家による直接相談機会の企画を検討中。 ・地域連携について（自治会・イベント協力） ・藤波様より：ペイタウン自治会と協力し祭り等の地域イベントへ参加。新しい街で住民構成が変化しており、つながりづくりの難しさを認識している。 公園改札1周年イベントで当園と協働し塗り絵を飾るなど、地域との連携を強化している。今後は、目的を持った地域連携を継続し、相互協力で認知拡大と関係構築を進める。 ・インスタグラムで活動の様子を発信し地域とのつながりを強化。園のキリスト教保育という特色の発信を行っていきたい。
保護者との連携	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園での保育活動の理解と向上に向けた取り組みをする。 ・日頃から保護者とのコミュニケーションを積極的に図り、子どもの様子、成長の喜びを共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や日々の登降園の際に子どもの様子や成長について保護者に伝えコミュニケーションをとるようにしています。また、instagramを使い保育の様子や行事等のねらいを伝えるようにしているが、instagramを地域の方への発信ツールとして使っているので、個人情報の観点から子どもたちの表情を届ける事はできていません。今後は地域の方と保護者への伝え方としてツールの使い分けも検討し更なる保育活動の理解に努めていきます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時等の日常的コミュニケーションを重視し子どもの様子や成長を共有している。Instagramは外部向けに発信していることもあり、プライバシー配慮で顔出しが難しく表情が伝わりにくいため、別の手法で保護者へ日々の様子を発信することが課題である。（例：保育ドキュメンテーションを玄関掲示などで導入し、子どもの表情や活動の狙いを可視化する等） ・保護者として：迎え時の会話のきっかけになり子どもも思い出して話しやすく、親子間での会話も弾むので、保育者の負担にならない程度に行なってほしいとの意見。 紙での印刷が負担になるようであったらiPadを用いて子どもの写真を見せるという手段もあるとの意見。 ・Instagram運用の目的は「地域や保育士志望者に園を知ってもらい、園児募集・職員募集につなげる」こと。現在徐々に文章よりも写真重視の内容に変えていっている。 キャプションよりハッシュタグ重視へ方針転換（園名ハッシュタグの見直し）。保護者向けの情報発信強化（写真に重要情報、送迎時にエピソードを一つ伝える）。

評価項目		具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
保育者の質の向上	5	HOINQ研修システムを利用し、研修制度の見直しを行う。	S	<p>・HOINQ研修システムの導入を機に、従来の研修への取り組み方を抜本的に見直しています。効率的かつ効果的に専門性を高められる学びの場を構築し、職員一人ひとりの資質向上を目指しています。今後は、研修で得た新しい知見や技術を現場の保育実践に即座に反映させるための振り返り体制を強化します。また外部の研修制度だけではなく法人作成のデータベースを使用したオリジナルの研修なども将来的には検討していきます。</p>	S	<p>15分程度の動画+話し合いで保育者間の意見交換・学びを促進。人数が少なく同時研修が難しい園に適合し、同一動画を見ることで情報共有が容易になった。年間の研修一覧から季節・時期に必要なテーマをピックアップして視聴する運用へ変更していく。</p>
	6	<p>・栄養士、保育士が各年齢の発達に合わせた食育のねらい及び目標を理解し、計画を立実践する。</p>	B	<p>・栄養士と保育士が密に連携し、各年齢の発達段階に応じた食育のねらいを明確にした計画的な実践が行われています。子どもたちが食に興味を持ち、健康な身体づくりを自分事として捉えられるよう、専門職同士の協力を深めています。今後は、栽培活動や調理体験など、子どもたちの実体験に基づいた活動をさらに充実させることが課題です。また、家庭への食育情報の提供を強化し、園と家庭が一体となって子どもたちの健やかな食習慣を育むための連携体制をより強固なものにしていきます。</p>	A	<p>・年齢発達に合わせた食育の計画実践、園・家庭連携強化、子どもが主体的に健康な体づくりを捉える。 ・来年度は切り干し大根・干し芋など「食材の変化」を毎日観察できる活動を導入し、食への興味・感謝を育むことを目標にしていく。</p> <p>関係者から ・現行の食育を評価しつつ、実体験拡充と家庭連携のさらなる強化を進めることへの期待のコメントをいただきました。 ・年長向け「お別れティーパーティー」計画（食育の総まとめ）に関しても、食育の締めくくりとして期待される声もいただいた。</p>

評価項目		具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
危機管理	7	事故や怪我発生時の振り返りを行い職員間で共有し再発防止に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 事故や怪我が発生した際、職員間での徹底した振り返りと情報共有を行い、再発防止に向けた具体的な対策を講じています。緊急時の職務分担を全職員が正確に把握しており、迅速かつ組織的に対応できる体制が維持されています。今後は、実際の事故だけでなく「ヒヤリハット」の段階での事例収集と分析をさらに徹底し、潜在的なリスクの早期発見に努めます。定期的な防災訓練や安全点検に加え、職員の安全意識を常にアップデートするための事例研修を継続し、子どもたちが安心して過ごせる安全な保育環境の維持・向上を最優先に取り組んでいきます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 事故が起こった際の心理的・環境的要因、時間帯や曜日などの事故要因分析を丁寧に行うことの重要性を確認した。 藤波様からの駅での急病人対応事例共有から、無線連絡・対応担当の明確化・即時情報共有の重要性を再確認。他の駅での連携不備による救急搬送遅延事例を踏まえ初動の情報共有と役割明確化の重要性を再確認した。 他職種でも、記録を即座に社内連絡アプリ等で情報共有し、同部署内で話し合うなど行なっている。
園経営全体の向上	8	人材定着への取り組みをする。 (職場環境改善)	A	<ul style="list-style-type: none"> 職場環境改善アンケートを実施し、その結果を職員全体で共有することで課題を明確化しています。解決に向けた目標時期を設定し、計画的に働きやすい職場づくりを進めています。今後は、改善策の進捗を定期的に振り返り、職員の負担軽減やモチベーション向上に繋がっているかを評価していきます。職員が心身ともに健やかに、意欲を持って保育に専念できる環境こそが質の高い保育の基盤であると考え、風通しの良い組織文化の醸成と、個々の多様な働き方を尊重する制度の充実に継続して取り組んでいきます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度・本年度で職場環境改善アンケートを実施し結果を共有、課題を可視化した。法人内に職場環境改善委員を設置し目標時期の設定と計画的改善を推進している。 不満ややりにくさの声を拾い負担軽減とモチベーション向上に取り組む。子ども第一の方針の下、職員のコンディションを重視し保育の質へつなげる。 継続的改善の必要性と人材不足の中での定着・育成の重要性を共有する。
	9	・保育、事務関係におけるICT化、AIの活用を行い業務の効率化に取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> 保育業務や事務作業におけるICTツールの活用を推進し、業務の効率化と情報の正確性向上に取り組んでいます。ICT化によって生まれた時間を、子どもと向き合う時間や保育の準備、自己研鑽に充てることで、保育の質への好循環を生み出しています。今後は、システム操作の習熟度を職員間で平準化するための研修を継続し、より高度なデータ活用による保育の分析や保護者支援への応用を検討します。デジタル化の利便性を享受しつつ、対面でのコミュニケーションの温かさも大切にする、バランスの取れた効率的な運営を目指します。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT化に伴うコスト負担、現場への偏り、習熟支援の課題を指摘。機器・PCが苦手な職員向けに時間確保や研修設計が必要。 関係者からのご意見として社内SNSの有効な事例を提供いただいた。(課題共有を行うことで他部署から良い提案をもらい、課題の迅速な解決につながったことなど) また、若い職員は対面コミュニケーションを好まないため、話し合いを深めるためにメールやチャットを活用していることも教えていただいた。 導入コストや習熟支援を考慮しつつICT・AI活用で効率化とコミュニケーション改善を進める。

第2幕張海浜保育園園評価実施要綱

【目的】

乳幼児の教育・保育活動その他園運営について目標を設置し、その達成状況や取組み状況について評価することにより、組織的・継続的な改善

【評価】

①自己評価は、当保育園多職種によって（保育士・栄養士等）行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取組みの状況について評価を行う。

②園関係者評価は第2幕張海浜保育園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の園長他、園関係者・地域の方が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う。

【評価時期】

自己評価	年2回	9月・1月
評価委員による評価	年2回	1月または2月
第三者評価	5年ごとに1回	2021年・2026年

【報告】

・園評価の結果について、保護者及び地域住民に公表する。尚、公表時期は、評価を実施した翌月とする。

【評価委員とその任期】

（自己評価者）

杉森未緒園長・後藤香菜主任保育士・古作江梨奈副主任保育士・市川まりこ保育士・堀内あおい保育士
小林美歩保育士・徳田美由希栄養士

（評価委員）

1		連絡委員会代表 卒園児保護者代表 卒園児保護者代表	松井 碧 笹木 美奈子 川嶋 恭子
2	地域関係者	株式会社千葉ステーションビルペリエステーションセンター長 株式会社千葉ステーションビルペリエステーション副センター長 および海浜幕張駅駅長・駅ビジネスPT 県立幕張海浜公園パークセンター所長	藤波 晃 籾谷 幸治 藤本 絵美
3	姉妹園職員	社会福祉法人愛の園福祉会 幕張海浜こども園園長	千葉 諭
4	その他園が認めた者		

評価委員の任期は委嘱の日から2年後とし、再任を妨げない